

教育を 読む

河合文化教育研究所
主任研究員 丹羽健夫

1603（慶長八）年、江戸幕府を開いた徳川家康について、イエズス会宣教師がローマに送った報告書に「家康は、伏見城の一室に巨万の財宝を隠しているのだが、あまりの重みのため、梁が折れ、床が陥没してしまった」と書いている。なにせ推計で金で17トンもあれば不思議はないであろう。現在のお金に換算すると二百七十八億六千万円になるという。四百年の歴史を築いた初代とあればむべなるかなである。

東京の日比谷公園は、八代将軍の徳川吉宗によるものである。大火に苦しんでいた江戸の防御策として、吉宗の懐刀の大岡越前守の発想としている。

吉宗は好奇心が強かったとみえて象を呼び寄せた。象は長崎に上陸し東海道をって江戸にやってきた。沿道は、さぞかし大騒ぎであったであろう。象の糞は天然痘の薬として効くと売れたそうである。象のほか吉宗は、虎、孔雀、駝鳥なども輸入

している。

十一代将軍の徳川家^{いえなり}齊は将軍職を50年つとめている。その間に、四十人の側室をもち、五十五人の子供をもうけている。いやはやなんともしらぬ。

最後の将軍十五代徳川慶喜は多趣味で、釣り、乗馬、弓、囲碁、刺繍、和歌、フランス語、当時最先端の写真、車の運転なども試みている。なかでも残された写真は、当時の風俗を語るものとして貴重である。

徳川幕府が滅び時代は近代に移っても、徳川家の人々は活躍する。

A
BOOK
REVIEW

『徳川家に伝わる 徳川四百年の内緒話』

徳川宗英著 文春文庫 本体 600円+税



清水徳川家八代の当主徳川好敏は、1910年12月代々木練兵場で日野熊蔵大尉とともに、国内初飛行に成功する。

このほか、「生類憐れみの令」で有名な五代将軍綱吉が助けた野良犬の餌代が、年間百億円であった、などなど興味のつきない内緒話でいっぱいの本である。

なお、田安徳川家十一代の当主である本書の著者が、最後に「徳川家に生まれても、いまや得することはほとんどない」とぼやいているのは笑える。